



# 立入が丘小学校だより



No. 5

## 2学期スタート（夏休み 心に残った出来事は…）

夏休みが終わり、2学期が始まりました。久しぶりに友だちと出会えるのを楽しみに登校してきた児童、終わりゆく夏休みを名残惜しく感じながら登校してきた児童など様々でしたが、6週間ぶりの再会に、少し大きくたくましくなった様子を感じました。

始業式では、1学期終業式で話した「数年後にも思い出せる夏休みに」「2学期の準備をする夏休みに」について達成できたかを尋ね、私が夏休みに心に残ったことを2つ話しました。

1つ目は、パリオリンピックです。今回のオリンピックも日本勢の活躍はめざましく、多くのメダリストが誕生しました。92年ぶりのメダル獲得となった馬術の「初老ジャパン」の面々（初老と言えども平均年齢は40歳前後です）や、日本の男子高飛び込み史上初のメダリストとなった玉井陸人選手（私は、彼が小学生の頃からテレビで見知っていて、筋肉の付き方や身体の柔軟さに驚いたのを覚えています）など、オリンピックでの活躍が目をつけた選手は多くいました。その中でも私は、男子柔道の阿部一二三選手に注目していました。兄妹揃って金メダルの本命と言われていましたが、妹がまさかの2回戦敗退（号泣する姿に賛否両論ありましたが、それだけ大きなプレッシャーを背負って戦っていたのだと思います。負けを知ることで阿部詩選手もさらに強くなると思います）。その後、自身が畳に上がったときの表情には、これまでに見たことのないくらいの強い決意や覚悟のようなものが感じられました。優勝後のインタビューで阿部一二三選手は、次のように話しています。

『絶対にむだな努力はない。もし何かがかなわなかったとしても、努力してきたことは絶対にむだにはなっていない。だからやり続けることは大切。努力はうらぎらないと思っている。』

目標をもつこと、目標に向かって努力を続けることは、小学生にとっても大切なことだと思います。努力すれば必ず夢はかなうとは限りません。しかし、努力を続けられる人間になることが、自分の将来を豊かにすると思います。立入っ子も努力を継続できる強い意志をもてるようになってほしいと思います。

2つ目は読書です。今、世間で話題になっている『成瀬は天下を取りにいく』を読みました。朝のラジオで紹介されていたのがきっかけです。大津の膳所を舞台に、中学生の「成瀬あかり」の成長していく様子が描かれている物語で、中高生に読んでほしい本として司書さんなどが薦める本屋大賞を受賞した本です。県内の滋賀県大津市の膳所が舞台となっていることに興味をそそられたのはもちろんですが、表現の仕方がわかりやすく、章ごとに成瀬を取り巻く様々な人々のそれぞれの目線で書かれているのが面白く、物語の先が気になり、どんどん読み進めることができました。実名で登場する学校名や施設名などもたくさんあり、物語なのに実話のような感覚になってしまう不思議さもありました。この夏休みは、聖地巡礼で大津観光、膳所観光をする人が増えたそうです。漢字に読み仮名がないので小学生には少し読みにくいかもしれませんが、高学年なら大丈夫かと思います。読まれた方も多いかと思いますが、本校の図書室にも並んでいます。まだの人は一度手に取ってほしいと思います。